

活動名	団体名	長州とことん総踊り実行委員会
	地域	山口県萩市
	代表者	実行委員長 川原 謙一郎
	支援金額	25万円
踊りをとおし過疎地域の子ども達に夢と機会をあたえる事業		
活動概要		
<p>過疎地域における子ども達の自主的な活動は、機会も薄く、少人数のため団体等の存続も難しい現状にある。特に市町村合併(1市2町4村)により広大な広さとなった萩市は、東から西までの移動距離が遠いところで50～60km、時間にして約1時間～1時間20分を要します。そんな状況の中、踊りという媒体をとおして子ども達に少しでも夢と希望を持ってもらうことを目的に、地域(旧市町村)の垣根を越えた活動を展開。広範囲の地域での会場確保、練習日程、指導体制や子ども達の足(交通)の確保などの問題点を抱えながらの事業展開となった。市内5会場での練習は、1会場1ヶ月2回を基本に4月より基礎練習を行い、途中体力別に分けた練習や合同練習を行ない、各地域でのイベントにも積極的に参加した。そして、11月9日(日)開催の第7回長州とことん総踊りを目指した。</p> <p>子ども達も練習を重ねる中で、当初戸惑いのあった者も、徐々に練習に打ち解け、垣根を越えた交流を行なうことができた。</p> <p>◆実施時期： 2008年4月1日～2008年12月20日 練習会場／萩市内5会場 発表／萩市役所第三駐車場ほか</p> <p>◆参加人数： 子ども 43名 (延べ958名)指導者 6名 (延べ193名)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,141名</p>		



《わらべ》



《ポーズを決めよう》



《萩キッズ》



《集合写真》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ・子ども達の交流のみならず、保護者間の交流が活発になった。
- ・子ども達の活動が活発化することにより、既存よさこいチームの活性化につながった。
- ・学校行事やふるさと祭り等に、学校単位のよさこいチームの参加が多くなった。
- ・子どもチーム参加増に伴う、長州とことん総踊り等のイベント観客数の増員につながった。
- ・地域施設の利用促進の向上につながった。
- ・過疎・高齢化が進む中、子どもの元気が地域を明るくし、地域行事への子どもチームの参加依頼が既存よさこいチームより多くなった。
- ・子どもの活動につられて、保護者の交流が始まり、保護者も練習に参加するようになり、親子でよさこいを楽しむ家庭が増えてきた。(4家庭→11家庭)
また、あまり姿を見なかったお父さんが、手伝いとして行事に参加してくれるようになった。
※子ども→お母さん→お父さん→祖父母へと連鎖反応。

◆苦労した点

【参加者の募集】

チラシの配布だけでは、なかなか応募がなく、団体等の協力により参加者を集めることができた。また、行政からは、市報での応募協力があつた。

【保護者の理解と協力】

広範囲な地域での活動であったため、子ども達が一箇所に集まるためには、保護者の協力が必要。特に、指導面では大半が夜間の指導となり、人集めに苦労した。また、子どもの意欲に対して、保護者の理解がないために、練習参加を断念した子どものケースが多々あつた。

子どもの足(交通機関)の確保には、双方が歩み寄り、最終的に指導者が出向く(会場を増やす)という結果になった。

【指導者の苦痛】

指導者としては、一会場で指導することが楽であるが、出来るだけ多くの子どもにチャンスを与えるためには、地域に出向くことを余儀なくされた。一晩に70km移動は難しく、特に今年はガソリンが一時期1リットル当たり190円まで価格が高騰。車での移動に負担が追いかぶさつた。

【会場の確保】

旧町村部での練習会場確保に比べ、市内での練習会場確保は難しく、子ども達が比較的自由的な夏休み期に活動できなかったことが残念であつた。

◆今後の課題・発展の方向性

地域(旧市町村)の垣根は、政治や人情による妨げではなく、距離と時間という阻害要件であることを再確認。指導者をはじめ多くの皆さんに迷惑をかけたが、元気な子どもの声と笑顔が、過疎・高齢化の地域を救うことを痛感した。事業終了後も、定期的に子ども達は一部の子どもを除き、現在も活動を継続しているので、今回の事業の実績を継続に結びつけ、地域の子どものをしっかり育てていくための、リーダー育成に取り組んでいきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

長年よさこい踊りに携わってきたが、機会に恵まれない子ども達がまだまだ沢山いる。

事業終了後「僕も、私も踊りたかった」という声を多数聞き、今も、この子ども達をどうにか救えないかと悩んでいる。今回、マツダ財団よりの助成金を頂いたことは、地域の実情を知る意味で大変意義ある事業だったと思います。今後も、この機会を無駄にすることなく、地域の子どもの健全育成と地域の活性化に全力で取り組む必要があります。

そのためには、多くの仲間とのネットワークを大切に、地域のリーダーを一人でも増やすことで、子ども達の笑い声のたえない地域の育成ができるものと思います。

50数年前、地域振興を目的に始まったよさこい踊り、たかが踊りですが、奥深いものを感じています。今回の助成誠に有難うございました。